



アルフレッド・シスレー《ルーヴシエンヌの道》(油彩・カンヴァス、ベルギー王立美術館蔵)

企画展 4月4日(土)～5月10日(日)

「京の日本画」 2

企画展 7月22日(水)～8月30日(日)

ベルギー王立美術館コレクション「印象派からフォーヴへ」 3

[自然] 観察ガイド「倉吉市巖城の「いわき きんうん もげん ぶ がん金雲母玄武岩」」 4
資料紹介「ダイセンクワガタ」

[人文] 資料紹介「博物館の珍品 ―江戸に降った白い毛―」 5
コラム「江戸時代の異魚・珍魚」

[美術] コラム「収蔵品にみる三国志」 6
新収蔵品紹介 いだにけんぞう あすか ふうけい いかすちむら伊谷賢蔵《飛鳥風景 雷村》
美術常設展

[山陰海岸学習館だより] みんなで守ろう！大切な砂浜 7

[おしらせ] 平成21年4月から博物館の開館時間を延長します

講座・観察会・毎週土曜はアートの日！ 8



京の日本画

794年の平安遷都から1868年の東京遷都まで、およそ千年にわたり皇都として繁栄し続けた京都は、日本古来の様々な伝統と文化を生み出してきました。とりわけ絵画芸術においては、狩野派や円山・四条派などに代表されるように、江戸時代までその中心的役割を果たしてきた土地として、他の都市とは異なる大きなバックボーンを持っていました。そのため明治以降、力をつけつつあった東京の画家たちの後追いをするのではなく、長い歴史の中で培われてきた伝統を礎に、ゆるやかに独自の表現を探究していきました。

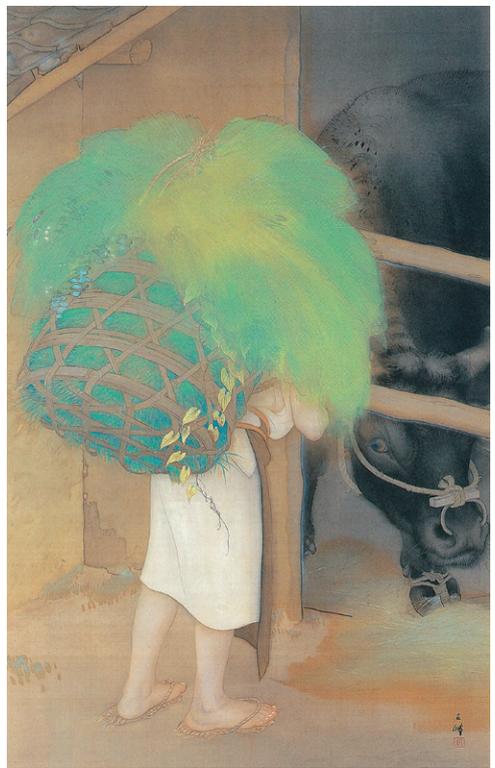
この度開催する企画展「京の日本画」は、展覧会タイトルからも分かるように、京都における日本画の流れを紹介するものです。しかし、展覧会の出品作に京都を代表する江戸時代の絵師・円山応挙の作品はありません。これは普段何気なく使っている「日本画」という言葉について考えてみれば納得いただけると思います。

「日本画」とは、明治新政府の近代化政策とも相まって急速に広まった油絵を指す「洋画」に対し、やまと絵や唐絵と呼ばれてきた旧来の東洋絵画の素材と技法を用いた絵画の総称として明治時代に確立した言葉です。そのため「日本画」とは明治以降の絵画にのみ使用するのが一般的です。

こうして生まれた「日本画」は、明治時代以降、常に伝統的な日本絵画と西洋の科学的な芸術観の間にあって、継承と改革を繰り返しながら発展してきました。これは伝統が息づく古都京都を舞台に活躍した画家たちもまた例外ではありませんでした。写生、つまりリアリティーを重視してきた応挙の流れを汲む円山・四条派の作風が、既に陰影表現など一部西洋絵画技法を意識した

ものであったため、当初、京の画家たちはこうした古来の伝統的な技法に安泰していました。しかし、徐々に社会の近代化の勢いに押され、時代の求めに応じ技法やモチーフに変化を持たせた新しい日本画を模索し始めます。なかでも、渡欧によりカラーやターナーなどから西洋絵画技法を摂取した竹内栖鳳が画壇に与えた影響は大きく、若手画家を中心に日本画の革新が一気に押し進められました。その脈流は、京都を代表する新進の絵画集団へと受け継がれました。大正期に土田麦徳や村上華岳などが中心となり京都を舞台に活躍した「国画創作協会」は、西洋絵画に見られる空間把握や実在感の表現、鮮やかな色彩などをいかにして日本画に取り込んでいくかを追求する一方で、旧来の日本絵画や中国絵画にも目を向け、新しい日本画の構築を目指しました。また、第二次大戦後、山崎隆や三上誠らによって結成された「パンリアル美術協会」は、第二次大戦後に伝統的な日本画材に納まりきれない多種多様な材料を使用するなど、従来の日本画の型を破る作品を多く発表しました。

本展では、京都画壇に関する屈指のコレクションを有する京都国立近代美術館に共催いただくとともに、同様に京都画壇の多くの名作を所蔵する京都市美術館の全面的なご協力のもと、両館のコレクションを中心にご紹介します。雅な美人画で知られる上村松園、その息子松篁、最後の文人画家の富岡鉄斎、伝統的な日本画から抽象まで描いた堂本印象など、時代が移りゆく中、京都を舞台に伝統と革新の間で大きく揺れた画家たちをとりあげ、近代の京都の日本画の歩みをたどり、その変遷を紹介します。



西山翠嶂《萩》(1920年、絹本着色、京都国立近代美術館蔵)

また、中島菜刀、八百谷冷泉、小早川秋聲、毛利秋晷といった京都でも活躍した鳥取出身の近代日本画家の作品も併せてご紹介しますので、是非ご来館下さい。

(美術振興課 林野 雅人)

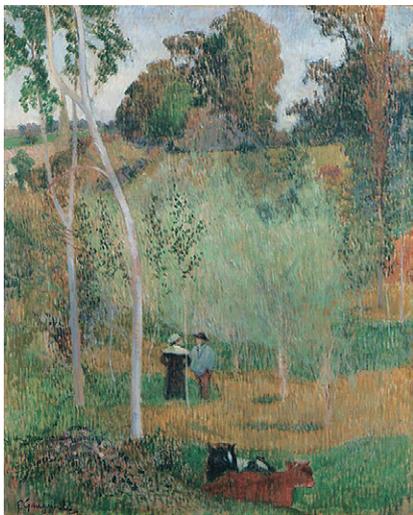
- 会 期：4月4日(土)～5月10日(日) (休館日：4月20日(月))
- 会 場：2階 第1・2・3 特別展示室
- 料 金：個人当日/600円
個人前売・20名様以上の団体/400円
※次の方は無料です/大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障害のある方・要介護者等およびその介護者
- 関連行事
- 講演会「近代京都画壇の100年」
4月12日(日) 14時～15時30分 講堂(無料)
講 師：島田 康寛(立命館大学教授)
定 員：250名(申込不要・先着順)
- アートセミナー「京都画壇と鳥取ゆかりの画家たち」
5月3日(日) 14時～15時30分 会議室(無料)
講 師：林野 雅人(当館学芸員)
定 員：40名(申込不要・先着順)
- アートシアター「お遊さま」
監督：溝口健二、主演：田中絹代、昭和26年
4月11日(土) 14時～15時30分 講堂(無料)
定 員：250名(申込不要・先着順)
- ギャラリートーク
4月4日(土)、4月18日(土)、5月9日(土)
14時～14時30分 企画展会場(要入場料)
- ワークショップ「日本画のひみつにせまろう！」
4月25日(土) 13時～16時 会議室(無料)
講 師：岸本章(日本画家)
定 員：20名 対 象 小学4年生～一般
申 込：県立博物館美術振興課(0857-26-8045)
受付期間：4月11日～(定員になり次第締切)

ベルギー王立美術館コレクション
ベルギー近代絵画のあゆみ

印象派からフォーヴへ

当館では今夏、ベルギー王国最大かつ最高の美術館として評価の高いベルギー王立美術館の優れた収蔵品による、ベルギーを中心とした西洋の近代絵画の歩みを紹介する展覧会を開催します。

ベルギー王国は、オランダ、フランス、ルクセンブルク、ドイツと国境を隣接し、ドーバー海峡を隔てイギリスとも隣り合う、ヨーロッパの中央部に位置する立憲君主制の連邦国家。国土は日本の四国の1.5倍ほどですが、首都ブリュッセルには欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）等、欧州の主要国際機関の本部があり、「ヨーロッパの心臓」「欧州の首都」とも呼ばれ、ヨーロッパの中核を担う国として重要な役割を果たしています。



ポール・ゴーギャン《牧場の中の会話、ボン＝ダヴァン》
(1888年、油彩・カンヴァス、ベルギー王立美術館蔵)

ブリュッセルの王宮近くにある王立美術館は、古典部門と近代部門に分かれ、初期フランドル絵画から現代のベルギー絵画まで約2500点が常設展示して公開されていますが、収蔵点数は絵画、彫刻、デッサン等2万点を超し充実したコレクションを誇っています。

ベルギーのフランドル地方は、かつて都市の経済的な繁栄を背景にフラ

ンドル絵画が隆盛し、ファン・アイクやプリューゲル、ルーベンスなどが活躍しました。また、20世紀ではシュルレアリスムのマグリットやデルヴォーなどの画家もよく知られていますが、印象主義を中心とした独立後のベルギー近代絵画の流れを紹介されたことはあまりありませんでした。

この展覧会では、王立美術館の優れたコレクションから選りすぐりのフランスおよびベルギーの近代絵画69点により、フランスで起きた写実主義、印象主義、新印象主義、フォーヴィスム等の芸術運動を受容しながらも並行して発展した、19世紀から20世紀のベルギー近代絵画の流れを紹介します。

フランス絵画では、バルビゾン派のカミーユ・コローとテオドール・ルソー、写実主義のギュスターヴ・クールベ、印象派のオーギュスト・ルノワールとアルフレッド・シスレー、ポール・ゴーギャン、フォーヴィスムのアンリ・マティスとピエール・ボナールなどの油彩画作品を展示します。

一方、ベルギーの主な出品作家では、ブリュッセル郊外のテルヴェーレンで外光派的な風景画を描き印象主義の先駆となったイリポート・ブーランジェ。ベルギーの象徴主義絵画の第一人者として脚光を浴びたフェルナン・クノップフ。「ベルギー固有の印象主義」と評価されたジェームズ・アンソール。新印象主義の作品に接しベルギーの点描主義の指導者となったテオ・ファン・レイセルベルヘ。陽光のきらめきを巧みに表現し、ベルギーにおける印象主義の勝利を決定づけたとされるエミール・クラウスなど。

ベルギーの出品作家の中には目にしたことのない名前もあるかもしれませんが、ベルギー王立美術館の所蔵品がまとまって紹介されるこの機



ベルギー王立美術館正面

会に、フランスの画家の作品とともに、ベルギーの近代美術を代表する画家の作品をご鑑賞いただければと思います。また、ミシェル・ドラゲ王立美術館長からは、図版提示した「ボナールの傑作《逆光の裸体》は最後の館外出品となろう」との言葉もあり、ぜひお見逃しなくご鑑賞いただければと思います。

(美術振興課 門脇 博)

■会 期：7月22日(水)～8月30日(日) 無休

■会 場：2階 第1・2特別展示室

■料 金：個人当日/1,000円

個人前売・20名様以上の団体/800円

※次の方は無料です/大学生以下・70歳

以上・学校教育活動での引率者・障害の

ある方・要介護者等およびその介護者

■関連行事

○講演会「ベルギー近代絵画と印象派(仮題)」

8月2日(日) 14時～15時30分 講堂〈無料〉

講 師：富田 章(サントリーミュージアム[天保山] 主席学芸員)

定 員：250名(申込不要・先着順)

○講演会「ベルギーの近代絵画について(仮題)」

8月9日(日) 14時～15時30分 講堂〈無料〉

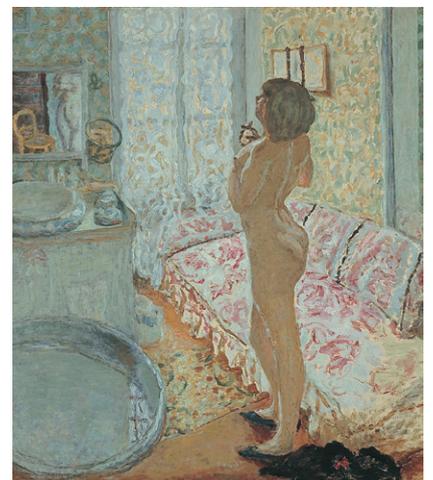
講 師：本江 邦夫(多摩美術大学教授)

定 員：250名(申込不要・先着順)

○ギャラリートーク

7月25日(土)、8月15日(土)、8月29日(土)

14時～14時30分 企画展会場〈要入場料〉



ピエール・ボナール《逆光の裸体(オー・ド・トワレ)》
(1908年頃、油彩・カンヴァス、ベルギー王立美術館蔵)

倉吉市巖城の「金雲母玄武岩」

JR倉吉駅からバスに乗り、中部総合事務所前でバスを降ります。バス通りを南西へ250mほど進み、信号のある交差点から北西へさらに250mほど進むと小鴨川にかかる巖城橋に着きます。この橋の正面には緑の木々におおわれ、山頂に城を模した小さな建物のある山が見えます。この山は城山と呼ばれていて、室町時代に因幡・伯耆の守護大名であった山名氏が築いた田内城の跡です。

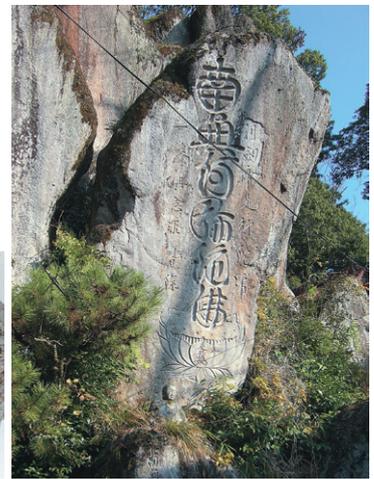
巖城橋を渡ってすぐのこの山のもとには、「南無阿弥陀佛」の文字が深く彫られた、岩阿弥陀と呼ばれる岩壁があります。この岩壁は、高さが5～6mで柱状にそそり立ち、その下にいと覆いかぶさってきそうで圧倒されます。この岩壁を構成する岩石は、鮮新世（約500万年～160万年前）の溶岩で、城山を含む一帯に分布して

います。

この岩阿弥陀の左側には城への登山口があって、溶岩の露頭が続いています。登山道を登りながら、そばの岩石をよく見ると、灰色の表面にたくさんの孔があります。この孔は、火山ガスが抜け出してできた晶洞と呼ばれるもので、その中にキラキラ輝く3～4mmほどの板状の結晶が見られます。これは「金雲母」で、普通はあまり産出することのない珍しい鉱物です。この場所と同様な岩石が、山口県下関近くの六連島にもあり、「六連島の金雲母玄武岩」の名称で国の天然記念物に指定されていますが、この巖城の「金雲母玄武岩」は、それにひけをとらず見事



金雲母玄武岩



岩阿弥陀

なものです。この溶岩の正式な名前はカンラン石粗面安山岩とされていますが、金雲母や緻密で多孔質な肉眼的特徴から、一般には「金雲母玄武岩」と呼ばれています。

岩阿弥陀やその周辺は、信仰の場所として地元の人たちが、手厚く保護していますので、岩石や鉱物の採集はできませんが、珍しい岩石ですので近くをお立ち寄りの際には、岩阿弥陀を拝んだ後で、じっくりと観察してみてくださいはいかがでしょうか。

（学芸課 山口 勇人）

資 料 紹 介

ダイセンクワガタ

ダイセンクワガタは、大山山頂付近の岩場に見られるミヤマクワガタの一品種です。こういう書き方をすると、「大山周辺に変わったクワガタムシがいるのだな」と思われるかもしれませんが、ダイセンクワガタはゴマノハグサ科の植物です。クワガタソウという植物の仲間に、ミヤマクワガタという昆虫と同じ名前の植物があるのです。

同じ種でも地域ごとに形が異なる場合、それぞれの地域に暮らすものを、「亜種」「変種」「品種」として区別することがあります。亜種は種のレベルに近い違いを、逆に品種はわずかな違いを持つものを区別する階級です。ミヤマクワガタは山ごとに形が

異なり、北海道以北のもの和本州のものがそれぞれ別の亜種に、本州内のものがいくつもの品種に分けられているのです。ダイセンクワガタは、葉の縁のギザギザが複雑（重鋸歯）で、花びらの外側の萼片があまりとがらないことで他の品種と区別されますが、研究者によっては独自の分類群としては認めないこともあります。

植物は、一般に押し葉標本にされ、当館にも3万点余りの押し葉標本が保管されています。しかし、押し葉は色が失われてしまいますし、生きていたときの形を保ってはいけません。最近ではアクリル封入標本という、生きていた時の色や形を保った



ダイセンクワガタ *Pseudolysimachion schmidtianum* subsp. *senanense* f. *daisenense* の押し葉標本(左)とレプリカ(右)

まま実物を保存する技術も発達してきましたが、大きなものを作るのは難しく、費用もかかります。そこで展示には、実物の生きている時の姿を再現したレプリカ（複製資料）をつくるのが一般的です。「どんなに精巧に作ってもレプリカはレプリカ、実物ではない」というのは確かですが、本当に精巧なレプリカは、研究者の監修のもと実物の姿を手間暇かけて再現しています。当館の常設展示室には、身近な植物や、ダイセンクワガタなどの山陰の特徴的な植物のレプリカが多数展示されています。（学芸課 有川 智己）